

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201294		
法人名	株式会社オールブルー		
事業所名	グループホーム メロディ		
所在地	長崎県佐世保市野中町500-2		
自己評価作成日	平成30年10月30日	評価結果市町村受理日	平成31年2月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	平成30年11月20日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、職員と利用者の密なコミュニケーションに力を入れており、空いた時間を利用者とは話せる時間等に充てるよう指導しています。実際には調理や洗濯といった直接のケア以外で時間がかかる部分を外注しているため、他施設に比べてコミュニケーションにかけられる時間は多いです。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理想のホームとなるために何が必要かを話し合い、理念「笑顔あふれるあったかホーム」と3つのモットーを作成した。中でも、笑顔でコミュニケーションを重点的に支援に取り入れている。利用者一人ひとりに寄り添いながら、利用者にとって必要なニーズに取り組んでおり、カラオケなどのレクリエーション、スマートフォンや趣味の継続などに反映されている。外部業者を活用することで、利用者との過ごす時間を増やし、ゆとりをもって支援している。また、洗濯を就労支援B型事業所に依頼しており、地域とのかかわりを大切にしている。管理者は、職員が働きやすい職場づくりが理念に繋がると考え、処遇改善に積極的に取り組んでいる。家族や運営推進会議など外部の声もチャレンジ精神から前向きに取り入れ、ホームのサービス向上に繋がっている。利用者との職員の笑顔で談笑する和気藹々とした光景は理念を具現化していることがわかるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人の思いをこめた理念を作成し、職員全員が見れる所に貼っている。	理想のホームには何が必要かを職員が話し合い、理念と3つのモットーを作成している。職員会議で理念の周知を図っており、職員面談や個人目標の評価時に、理念の意識付けを行っている。職員は“笑顔あふれるあったかホーム”となるよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事や清掃活動に参加し、交流を図っている。	町内会に加入し、総会や地域清掃に参加している。毎月紙芝居やハーモニカのボランティア、中学生の職場体験、高校生の実習を受入れており、利用者と交流している。管理者は家族や地域住民に向けて、認知症サポーター養成講座を実施しており、認知症への理解に向け取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座等を通じて、地域に向けて認知症の理解が進むように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を実践し、施設内の状況報告や意見交換を行っている。	年6回規定メンバーで実施している。会議では、利用状況や活動内容、ヒヤリハットの報告を行い開示しており運営の透明性が窺える。参加メンバーからの質問や意見、アドバイス等があり、活発な話し合いが行われていることが議事録から確認でき、ホームのサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐世保市の長寿社会課や監査指導課と連絡を取り合うことで、適切なケアを行うように指導を受けている。	市担当課とは、質問や災害時の避難に関する調査回答等はFAXでやり取りを行っており、急用時は窓口を訪ねている。利用者によっては、定期的に担当課員の訪問があり、協力関係を築くよう努めている。また、行政から案内のある研修等を職員は受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行ったり、身体拘束ゼロへの手引きをいつでも見れる場所に配置して理解を深めている。	年1回身体拘束ゼロへの手引きをもとに内部研修を実施しており、職員は身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。強い口調になりやすい言葉は優しい言葉に言い換え、温かく優しい支援を行うよう努めている。昼間は玄関の施錠はなく、利用者が一人で外に出た際には、職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての事業者内外での研修等を通じて、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修によって成年後見制度への理解を深めるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には十分な時間をとり、一度持ち帰ってもらう等することでしっかり目を通してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に管理者や役職者等が時間を作り、要望をきける機会を作っている。	職員はホーム便りとブログにて、利用者の様子を家族に伝えている。また、家族の訪問時や電話を活用し、要望や意見を聞いている。家族会の総会や敬老会に、家族の参加を呼びかけ、気軽に意見交換ができる場を設けている。居室エアコンの掃除や家族会会費など、家族の意見をもとに運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の定例会議の際に、職員の意見をきき積極的に意見を反映させるようにしている。	管理者は、月1回の会議の他、日常的に職員の意見や要望を聞いている。年2回個人面談や懇親会など、職員が意見を言いやすい仕組みもある。管理者は産休や有給休暇など、職員の要望も含めながら処遇改善を行っている。空調設備やトイレの修繕、カラオケ機器導入など、職員の意見や提案をもとに実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生等を充実させるよう取り組んでいる最中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に関しては、勤務の一環として積極的に参加するように促し、取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会を通じて、他事業所の管理者や職員との交流の場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人とコミュニケーションをとる時間を十分に確保し、不安や悩み事などを積極的に聞き出し安心してもらえるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入直後には家族との関係づくりを重視して要望等を積極的に聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前には本人、家族の必要としていることを聞き取りするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	たまに一緒にテレビを見ながら利用者と世間話をする時間も、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係構築は進めているが、協力関係は築けている家族とそうでない家族の差がかなりある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に関してはできるだけ施設側もアプローチして本人との関係継続を進めているが、現状はまだ不十分である。	家族や近所の友人など訪問があり、外出は自由である。自宅や墓参りなど馴染みの場所への外出は、家族の協力を得ている。カメラや園芸、新聞など家族と相談しながら、趣味の継続を支援している。投票に出掛けたり、スマートフォンを所持するなど、本人が大切にしてきた馴染みを尊重している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが円滑にすすめられるように、職員が間を取り持って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、後任のケアマネジャーとの引継ぎや、その後のフォローは行っているが、本人や家族との関係性は途切れていることがほとんどである。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らしの希望に沿いたい意思はあるが、現状なかなか困難であるため、施設でできる範囲内で本人本位にしていくように進めている。	職員は一人ひとりとのコミュニケーションを重要視し、居室訪問やリビング等で、リラックスして会話をしながら、思いを汲んでいる。会話が困難な場合は、自己決定しやすい声掛けを行い、表情から思いを察している。職員は得た情報を申し送りし個人記録で情報共有している。日常の過ごし方は本人本位に検討し実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方等の把握は家族とのコミュニケーションの中で行っているが、キーパーソンとなる家族が遠方の方が多く、現状は困難である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3カ月に1回、担当職員がアセスメントシートを作成し、利用者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの話をきいたり要望をまとめたりはしているが、チームとしてつくり出しているかはよくわからない。	毎月職員全員でカンファレンスを行い、4ヶ月の短期目標に合わせ、担当職員がモニタリング後、職員会議で確認し見直ししており、本人の署名を得て、プランを実践している。今年度から利用者の日々の状況が確認できるよう、個人記録の書式の変更を行っている。ただし、個人記録からはプランの実施状況が確認できない。	今後は、ケアプランの実施状況が確認できるような記録の取り方を含め、更なる工夫・検討に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は個別に記録して、情報の共有に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の多機能化は現状まだそこまで行われていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方と連携してきたいと思うが、なかなか接点を持つことができず、難しい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お2人を除いては現状往診で対応していただいている。特別な治療を必要とする方は専門のかかりつけ医と連携して医療を受けられるようにしている。	本人・家族の希望に沿い、かかりつけ医を決めているが、内科・歯科等協力医による往診を受ける利用者が多い。通院は基本的には家族が同行しているが、職員が対応する場合もある。受診結果に変化が見られたら都度報告している。また、緊急時の対応について職員は理解しており、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能の看護師や、提携医療機関の看護師と密に連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と適切な連携がとれていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた方針の共有は、比較的早い段階から実践できている。	契約時、ホームでは看取り介護を行う旨を説明しており、主治医の診断の下、早期の段階で同意署名を得ている。状況に応じて、主治医、看護師を含め話し合い、家族の意向を確認している。これまでに事例もあり、職員は看護師から看取りのケースに合わせて指示を仰ぎ、できる限りの支援を行っている。看取り後は支援を振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応は指導しているが、応急手当や初期対応はまだまだな部分が多い。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策の外部研修に参加したり、自施設での訓練を実施してはいるが、地域との連携は現状あまりとれていない。	年2回昼間想定消防訓練を実施しており、うち1回は消防署立会いの訓練であり、通報・消火・避難誘導を行っている。これまでに夜間想定訓練はなく、全職員が訓練に参加できていない。また、地域連携についても、訓練への参加はなく、運営推進会議で訓練実施報告を行うに留まっている。	災害はいつ起こるかわからないため、夜間想定訓練実施と全職員が訓練に参加できるような工夫に期待したい。また、事業所のみでの避難誘導には限界があるため、地域との連携についても検討・取り組みが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重に関しては充分に取り組んでいると思う。言葉かけはまだまだな職員もあり、引き続き指導を要する。	管理者は職員に、利用者には年長者として接し、声掛けするよう指導している。特に羞恥心に配慮し、失敗時はさりげなく対応している。排泄や入浴など同性介助も可能である。ただし、トイレにあるパッド類の整理に配慮が必要である。職員への守秘義務の誓約書はあるが、利用者の写真使用について家族の同意は口頭のみとなっている。	人格尊重の視点から、パッドの整理方法を工夫することを期待したい。また、ホームではホームだよりのほかブログにおいても写真使用がある。随時確認することも必要であるが、書面にて詳細に使用内容を確認し、同意を得ることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を表したり、自己決定出来るようにする取り組みは行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の決めた時間に無理に当てはめようとせず、ひとりひとりの過ごし方を希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の方々には日頃からおしゃれができるように声掛けを実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる利用者の方には後片付けやテーブル拭きなどをやっていただいている。	主菜は外部業者を利用し、主食と汁物を職員が調理している。菜園の野菜を具材に旬を感じたり、月2回手作りの日はリクエストに応え、食への関心を引き出している。食事制限がある場合、食材や調理法を変え、みんなと一緒に食事を楽しめるよう工夫している。外食に出かけたり、誕生会や行事食など、食欲が高まる取り組みもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせて食べ物の量や形体などを考えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力によって口腔ケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立支援は進めたいが、今のところあまりできていない。	日中はトイレで座位排泄を支援している。排泄状況は個人記録に記し、支援内容を検討している。声掛けが必要な場合は、時間や仕草を見て介助している。過介護にならないよう、本人の行動を見守っている。パッド類や支援内容を検討することで、ホーム内では布パンツを使用し、快適に過ごすよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便についてはチェックして、適切に便秘の予防や排便のコントロールができています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせて入浴を楽しめるような取り組みは現状まだできていない。	週2回入浴支援を行っており、シャワー浴など随時対応している。拒否時は、強制せず声掛けを工夫している。リラックスできるよう利用者が湯船につかったら、職員は安全に配慮しながら、隣の脱衣所で見守っている。ゆず湯や菖蒲湯を実施したり、シャンプー類や入浴剤などは個人の希望に応じるなど、安心して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して眠れるようには支援できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量に関しては小規模多機能の看護師や提携医療機関の看護師と連携して、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌がお好きな利用者が多かったので、カラオケ機器を導入するなど、楽しく過ごせるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設だけでは玄関先や近所ぐらいまでしかお出かけに対応できず、家族と協力できるところは協力して対応している。	天候や体調に応じて、ホーム周辺や庭を散歩している。自宅への帰宅や墓参り、買い物など本人の希望は、家族の協力を得て行っている。職員は、利用者の気分転換に周辺へドライブしており、季節ごとの花見や風景の見物を企画し、利用者全員で外出を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談しながら、その人それぞれに合わせてお金の所持や使用をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については支援できているが、手紙のやり取りは現状ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は過ごしやすいように配慮をしている。	採光がよく明るい事業所内は、毎月利用者と職員が作成している作品や季節ごとの飾り付けを行っている。リビングでは、テレビやカラオケ、体操等レクリエーションを楽しんだり、食堂のテーブルを囲んで談笑したり、和気藹々とした雰囲気が確認できる。毎日職員が清掃・換気を行っており、居心地よく過ごせるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で気の合った方たちと過ごせるように食事の席や日中過ごす場所などに工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはなるべく、自宅でなじみのあるものを居室に持ち込んでもらうように、本人、家族にお伝えしている。	日当たりは良く、木調の温かい居室は家庭的な雰囲気である。本人の馴染みの物や好みの物の持込みに制限はなく、家族写真や本、テレビ等自由に配置している。職員は利用者が快適に過ごせるよう清潔保持に努めており、利用者はスマートフォンで調べ物をしたり、雑誌を眺めたり、ベッドで横になる等、自室でゆったりと過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はできるだけ安全に使えるようにいろいろな場所に案内を貼るなどして、自立した生活が営めるようにしている。		